

世界「かんがい施設遺産」

深良用水

完成から340年以上が経過し、現在も市内の農業や水力発電に必要な水を流し続けている深良用水。先人の偉業と地域の方々の長年に渡る維持管理の努力が世界に認められ、国際かんがい排水委員会（ICID）が今年度創設したかんがい施設遺産に登録されました。

問合せ／総務管財課 995-1807

● かんがい施設遺産

初年度の登録は5カ国17施設

かんがい施設遺産制度は、今年度創設された制度で、歴史的なかんがい施設を国際かんがい排水委員会（ICID）が登録・表彰するものです。初年度の今年度は、日本9、中国4、スリランカ2、タイ1、パキスタン1の5カ国17施設が登録されました。

かんがい施設遺産の対象となるのは、建設から100年以上経過した①かんがい用ダム②貯水施設③堰、分水施設④水路⑤古い水車などです。これらの施設の中で、10項目ある登録基準のうち一つ以上満たす施設が、かんがい施設遺産に登録されました。深良用水は、(1)かんがい農業の発展、食料増産などに資するもの(2)設計、施工などが当時としては先進的なもの(3)農村の発展、貧困削減に大きく貢献したもの(7)当時としては驚異的で卓越した技術であったものの4つの基準に該当していると考えられます。※()は基準番号。

● 9月16日に登録決定

かんがい施設遺産には、全国から23施設の応募がありました。ICID日本国内委員会で審査を行い、7月15日に10施設を日本の候補としてICIDに申請しました。ICIDで審査が行われ、9月16日(火)に韓国光州広域市で開催されたICID国際執行理事会で登録が決定しました。10月23日(木)に農林水産省で登録証の伝達式が行われ、ICID国内委員会の佐藤洋平委員長（東京大学名誉教授）から静岡県芦湖水利組合管理者の高村市長に登録証が手渡されました。



伝達式で登録証を受け取る高村市長



▲登録証

— 干ばつに苦しんだ深良村

江戸時代のはじめまで深良やその周辺に住む農民たちは、地上に流れる水を十分に確保できず、炊事や洗濯などの生活用水の確保や米作りに苦労していました。水が地下に浸透しやすい土地のため、新たに水田を開拓しても、雨が降らないと干ばつに見舞われ、米が実らず収入はありませんでした。そのため農民は貧しい生活をしいられていました。江戸時代のはじめ、深良村の名主であった大庭源之丞^{げん の じょう}は、芦ノ湖の水を深良に引くことを考え、新田開発の経験がある江戸の商人、友野与右衛門^{よえもん}らの協力を得て実行していきました。

— 合流地点の段差は1 m

幕府に用水の計画を提出してから3年以上の月日が経った寛文6（1666）年、工事の許可があり、8月に深良側から工事が始まりました。3カ月後には芦ノ湖側からも始まり、のみを使って掘り進められました。坑道の上には、換気のための息抜き穴が掘られるなど先進的な技術を駆使していました。水路トンネル工事には延べ84万人の作業員が動員され、完成まで3年半かかりました。トンネルの長さは1,280 m、合流地点での高低差はわずか1 m程度で、高度な測



◀段差1 mの合流地点

深良地区郷土資料館

深良用水の資料を展示

深良支所に隣接した建物内にあり、入館無料です。深良用水の開削の歴史や用水の大切さ、大庭源之丞や友野与右衛門たちの偉業を伝えるための施設です。開削に使われたのみや照明具の行灯^{あんどん}などの基礎資料が展示されています。見学の申込みは、深良支所で受け付けています。

開館日時／(月)～(金) ※祝日・年末年始を除く

9時～16時

問合せ／深良支所 992-0400



岩を砕いた火と水

まっすぐ掘るのに提灯を！

大きな硬い岩には、油をかけ、火をつけて岩を熱し、水をかけて砕きやすくして掘り進めました。トンネルは、両側から掘り進められました。すれ違いを防ぐためには、まっすぐ掘っていく技術が必要でした。そこで、1～2 mごとに提灯をつるし、その提灯が直線上にあることを確かめながら掘り進めたという説があります。

量技術が用いられたことがわかります。トンネルの平均勾配は1/130で、水利技術も高い水準でした。



工事に使われたのみと行灯

— 農業用水、産業用水に利用

深良用水は、寛文10（1670）年2月25日に貫通し、4月25日に通水しました。340年以上経過した現在も深良地区をはじめとした市内、長泉町、清水町、御殿場市の約530haの農地を潤し地域農業を支えています。また、日本の近代化が進められた明治時代以降には、深良用水の水を利用して水力発電も開始され、産業用水としても利用されています。

平成17年には農林水産省の全国疎水百選にも選ばれている深良用水。深良用水の建設は、先人の技術を駆使し、自然の恵みを利用した歴史的な大事業でした。

